

開催日時	平成 24 年 9 月 21 日（金） 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分まで
開催場所	大垣市民病院 2 病棟 1 階会議室
議題	(1) 前委員会開催時の課題について (2) 平成 24 年度の取り組み状況について (3) (仮) 大垣市民病院中期計画の策定について (4) 大垣市民病院医療連携ネットワークシステムについて (5) よろず相談・地域連携課からのお知らせ
出席委員	委員長 山川 隆司（大垣市医師会長） 副委員長 杉山 勝治（大垣歯科医師会長） 委員 鈴木 一郎（弁護士） 委員 岩田 雅人（安八郡医師会長） 委員 和田 育穂（大垣市医師会） 委員 近藤 潤一郎（大垣市医師会） 委員 片野 雅文（大垣歯科医師会） 委員 松本 正平（大垣薬剤師会長） 委員 久保田 芳則（西濃保健所長） 委員 伊藤 恒子（日本中央看護専門学校長） 委員 竹中 昌子（大垣市連合婦人会長）
会議の公開区分	公開
傍聴人	なし
審議概要	(1) 前委員会開催時の課題について ・ 開放型病床の利用率の向上と小児科医への利用促進について、7 月 18 日に医師会の内科会で「開放型病床の活用術」の題目で利用方法を開業医に説明した。また小児科医へは、西濃圏域で小児科を標榜している医療機関に利用促進の案内文を送付した。 ・ 開放型病床の個室設置について、個室設置の病棟が、病棟の担当診療科と異なる病態の患者さまを担当することとなり適切な対応が困難となるため、個室を設置しない。個室管理が必要であれば、登録医と相談の上、個室への一般入院を検討する。 ・ 開業医の救命救急センターの入室対応について、入室方法をセンター 2 階入口のインターホンを押すことで入室できるとし、平日時間内は、開業医からよろず相談・地域連携課への連絡で、事前に当課がセンターに連絡することで、速やかな入室対応を行うとした。 (2) 平成 24 年度の取り組み状況について ・ よろず相談・地域連携課より、紹介率・逆紹介率、共同利用の実施として紹介医からの診察・検査数、救急医療の提供として救急利用件数、職員・医療関係者の研修会と市民対象の講演会の開催状況、開放型病床の利用状況の報告があった。 紹介率：44.8%（H24 年 4～8 月平均）、逆紹介率：60.9%（H24 年 4～8 月平均） 紹介診察件数：2,849 件（H24 年 4～8 月合計）、紹介検査件数：537 件（H24 年 4～8 月合計） 救急受診患者数：18,543 人（H24 年 4～8 月合計、月平均 3,709 人） 救急車利用件数：3,503 件（H24 年 4～8 月合計、月平均 701 人） 救急入院患者数：978 件（H24 年 4～8 月合計、月平均 196 人） 職員・医療関係者研修会：病診連携カンファレンス、コメディカル・ブロン勉強会、西濃がん早期診断研修会 等 H24 年 4～8 月分：開催数 13 回、参加人数 1,091 人（院外 156 人、院内 935 人） 市民を対象とした講演会：市民公開講座、在宅療養支援講座、糖尿病公開講演、成人気管支喘息教室 等 H24 年 4～8 月分：開催数 17 回、参加人数 912 人（院外 849 人、院内 63 人） 開放型病床の状況 登録医数：80 人（各医師会員 71 人、歯科医師会員 9 人）（H24 年 8 月末現在）

	<p>病床利用率：19.0%（H24 年 4～8 月平均）</p> <ul style="list-style-type: none">各委員より、開放型病床における共同指導についての意見があった。内容は次のとおり。<ul style="list-style-type: none">①土日や夜に病棟でカルテを見ることはできるか。<ul style="list-style-type: none">→（よろず相談・地域連携課）看護師が電子カルテを用意しているが、土日や夜間は少ない看護体制のため、準備に時間を要するときもある。来診前に事前に連絡していただく方がよい。②電子カルテを見るにはパスワードが必要。登録医にはパスワードを配布するのはどうか。<ul style="list-style-type: none">→（委員）登録医は現状の紙記載の方がよい。ただし、画像は見たい。→（当院医師）パスワード交付はセキュリティの問題がある。真に登録医であるかを確認する手段が必要。→（よろず相談・地域連携課）証明書のようなものを発行できるか検討する。 <p>（３） （仮）大垣市民病院中期計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none">事務局庶務課より、当院の西濃地域における役割や具体的な事業運営の目標を明確にし、病院運営の指針となる「（仮）大垣市民病院中期計画」を策定する案が示された。内容は次のとおり。<p>計画の名称：（仮）大垣市民病院中期計画</p><p>計画の期間：平成 25～29 年度</p><p>計画の構成：（１）病院の理念、（２）病院の基本方針、（３）中期ビジョン、（４）施策の体系</p><p>＊（４）施策の体系について：中期ビジョン「地域住民が望むマグネットホスピタルの構築」</p><p>1.安定した経営の確保、2.地域連携の強化、3.患者サービスの強化、4.人材の定着と確保、5.高度急性期医療の充実</p><p>策定方法：外部委員で構成の「地域医療支援病院に関する委員会」（当委員会）を活用して策定する。</p><p>計画策定のスケジュール：今年度 12 月に「大垣市民病院に関する委員会」へ計画案を提示する。</p>各委員より、大垣市民病院の中期計画について意見があった。内容は次のとおり。<ul style="list-style-type: none">①緩和ケアの充実について、ホスピスに対する取り組みはどうか。<ul style="list-style-type: none">→（当院医師）現在は緩和ケアチームで対応しているが、将来的には緩和ケア病棟の設置を考慮していく必要もある。②看護体制の強化についてはどうか。<ul style="list-style-type: none">→（当院医師）現在、10 対 1 の看護体制で、看護師不足は解消されていない。新たに短大が看護学校を設置するなど、看護師を養成する施設の設置が進んでいるため、当院が看護学校を新たに設置することは考えていない。③院外処方への切り替えに移行した場合の薬剤備蓄体制について。<ul style="list-style-type: none">→（委員）薬剤師会も、今年度から全面切り替えに対応する備蓄等の体制を整えて行きたい。④在宅医療の支援について。<ul style="list-style-type: none">→（委員）在宅支援について市民病院は病床が多いためできないと思う。200 床以下の病院に行ってもらえればよい。現在は診療所の医師がチームを組んで 24 時間体制で試験的に行っている。また、市民病院が在宅医療へスムーズに移行できるよう支援をしてほしい。例えば、在宅で使う物品の供給等。さらに、各病棟にはケースワーカーがおらず、看護師が行っているところもある。病棟ごとにケースワーカー等の責任者がいればよい。 <p>（４） 大垣市民病院医療連携ネットワークシステム</p> <ul style="list-style-type: none">よろず相談・地域連携課より、大垣市民病院医療連携ネットワークシステムについて説明があった。内容は次のとおり。<p>システムの概要：市民病院とかかりつけの医療機関が、インターネット回線を介して、市民病院で行った診療内容で事前に同意した患者の情報を、各医療機関の専用端末から閲覧できるもの</p><p>運用方法：利用者は、市民病院に利用登録し、システム利用に必要な ID・パスワードの交付を受けた医師・歯科医師。</p><p>導入スケジュール：H24 年 4 月から稼動する。医師会・歯科医師会等への説明会は順次行っていく。</p> <p>（５） よろず相談・地域連携課からのお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none">よろず相談・地域連携課より、診察予約受付時間の延長と当課のたよりについて説明があった。内容は次のとおり。<p>診察・検査予約受付時間の延長について：現在の平日午後 6 時 30 分から午後 7 時 00 分まで延長する。</p><p>よろず相談・地域連携課だよりについて：第 2 号として当課からのお知らせ等を掲載した便りを発行する。</p>
次回開催	平成 24 年度第 3 回は 12 月 25 日（火）の開催とする